エメラルドシティ出張記

国際会議参加のため、1998 年 5 月中旬、シアトルへ出かけましたので、それにまつわるお話をさせて頂きたいと思います。シアトルは強い印象のあるタイプの都市ではありませんので、その場所を即座に思い浮かべられる方は以外に少ないかも知れません (私もその一人でしたが...)。アメリカ西海岸の最北端、カナダ国境のすぐ南に位置します。天気は曇り勝ちで、小雨がぱらついていることが多く、イギリス的な天候です。かつては、ゴールドラッシュで栄え、大戦中は、ボーイング社があったため、軍需産業で栄えたそうです。最近では、マクロソフトを始め、ソフトウェア産業が盛んな都市としても知られています。マクロソフト創業者のひとりであるビルゲイツは、雨の多いシアトルに育ったため、外で遊ぶことができず、家の中で遊ぶうちにコンピュータの才能を伸ばしたという謂われがあるそうです。エメラルドシティという愛称は、緑と川や湖などの自然が豊富なことに由来しています。近郊には、レーニエ山があり、富士山に似た形をしているはずなのですが、残念ながら、滞在中ずっと天気がすぐれず、とうとうその姿を見ることはできませんでした。シアトルは、アメリカでのコーヒー流行の発祥の地だそうで、その流行は最近では、紅茶の国であるイギリスにまで飛火しているようです (ちょうど滞在中、CNN のニュースで話題になっていました)。日本でもこの流行にあやかろうということか、コンビニエンスストアなどでレーニエ山をマークにしたカフェ・ラテ (エスプレッソコーヒーにスチームしたミルクを入れたものでシアトルが発祥の地) が売られているのを見かけた方もいらっしゃるのではないかと思います。

肝心の国際会議ですが、「IEEE 音響・音声・信号処理国際会議」(IEEE International Conference on Acoustics, Speech, and Signal Processign: 略称 ICASSP) という会議で、私の専門とする音声認識・音声合成などの分野では、最も規模が大きく、また発表論文のレベルも高いものです。発表申し込み件数も多くなっているため、申し込みは、第一著者としては 1 件、共著者としても合わせて 3 件までという制限が設けられており、また、論文審査もフルペーパー査読となっています。幸い、私が投稿した 3 件

シアトルのシンボル、スペースニードル (左) から見たシアトル市街中心部 (右)。
天気がよければ、高層ビルの向うに雪を被ったレーニエ山が見える。

の論文は、無事採録されました。国際会議での研究発表の様式は、OHP などを使った口頭発表と、ポスターによる発表があります。ポスター形式の発表では、数メートル四方のボードが並べられ、各発表者は、割り当てられた自分のボード上に発表の内容をまとめたポスターを貼り、その前で説明をしたり、質問を受けたりします。聴き手は、自由に自分の興味のあるポスターの前に行き、発表を聞いたり、質問をしたりすればよいわけです。ポスター会場は会議によっては閑散としている場合もありますが、ICASSP では、熱心に発表を聞く人が多く、会場は縁日の出店のような状態になります。今回も、人出が多く、ポスターの前を行き来することが困難になったため、2 日目から、ポスターの前のスペースを多くとるように、ボードのレイアウトが変更される程でした。

会議開始の前日には、マクロソフト研究所見学ツアーが催されたので、参加してきました。シアトル市内の主要ホテルから、バスが何台も出たり、見学の休憩時間に出されたスナックが、ほとんどパーティー料理のようだったりと、マイクロソフトの経済的な余力を感じさせるものでした。実は、最近マイクロソフト研究所が発表した音声合成システムが、私たちが提案している音声合成システムと似た方式を用いており、気になっているのですが、あちらは、あちこちの研究機関からから引き抜いた豪華キャストとも言うべき研究者と潤沢な資金で研究開発を進めていますので、うかうかしては居られません。会議には、研究成果を搭載した製品のデモを行なうための展示会場が設けられていますが、そこでマイクロソフトも音声認識・合成のデモを行っていましたので、情報収集とばかり、マイクロソフトのブースで説明していた研究者に、かなり専門的でシステムに立ち入った質問をしてみました。このような質問には、企業秘密ということで答えてくれないものと思っていましたが、驚いたことにすべての質問に正確に答えてくれました。そばで見ていた知り合いの日本人研究者のコメント：「きっと、ずっと展示ブースで専門分野外の人からの質問に答え続けて、ストレスが溜り切ったところで専門的な質問が来たので、思わず喋ってしまったのではないでしょうかね」。研究者の性（さが）でしょうか。本当のところはわかりませんが、お蔭で思わぬ収穫を得ることができました。

会議終了後、カリフォルニア州立大学サンタバーバラ校 (UCSB: University of California, Santa Barbara) の Allen Gersho 教授の研究室を見学するため、その日の内にサンタバーバラへ移動しました。「大

サンタバーバラのシンボル、桟橋入口にあるイルカの像。
シアトルとは対照的に日差しがまぶしい。

学のキャンパスを出て、道路を一本渡るとそこはビーチです」と聞いていたのを、多少の尾ひれはついているのだろうと予想していたのですが、正にその言葉通りで驚かされました。サンタバーバラは、ロサンゼルスから北へ 100 マイル (160km) ほどの都市で、保養地として知られており、ロサンゼルスで成功した金持ちが隠居後過ごす場所でもあるようです。観光客で賑わうダウンタウンのメインストリートは海に向かい、木製の巨大桟橋 (?) につき当たります。桟橋には、レストランやギフトショップが並び、観光スポットになっています。ダウンタウンの建物は、南スペイン風に統一されていて、白い壁とレンガ色の屋根がいい雰囲気を出しています。研究室見学の翌日には、ロサンゼルス経由で帰国する予定でしたが、サンタバーバラ発の便が遅れたため、ロサンゼルスでの乗り継ぎに間に合わず、ロサンゼルスの空港ホテルで一泊させられるはめになりました。サンタバーバラが素晴らしい所だっただけに、こんなことなら、サンタバーバラでもう一泊すればよかったと後悔しきりでした。

ところで、海外出張は概して日程がきつく、また、準備のため、出発前には無理をしていますので、体調もよろしくなく、なかなか観光気分にはなれませんが、家族は自分たちをほっておいて海外旅行に行くようなものと思っていますので、おみやげを欠かすことはできません。このため、4 歳の息子には日本では見かけないおもちゃを買っていくことにしています。今回は、アメリカの Beast Wars (怪獣戦争?) というテレビのアニメ番組 (と言っても全てコンピュータグラフィックスで制作されているらしい) に出てくる怪獣のおもちゃを選びました。プラスティック製で，例えば、カブトムシから怪獣へといった具合に形を変えることができるものです。私は、カニが怪獣に変身するものを選びました。日本でも、戦闘機からロボットに変身するようなおもちゃがテレビ番組とタイアップして売られていますので、どこでも同じようなものが流るのだなと感心しましたが、それもそのはずで、パッケージをよく見ると「licenced by ××××」とあり、日本の玩具メーカーのライセンスの下で作られたものでした。最近では世界が小さくなり、珍しいおもちゃを見つけるのも楽ではありません。